

奥州市議会全員協議会 会議録

【日 時】 令和6年7月26日（金） 11:10～11:33

【場 所】 奥州市役所7階 委員会室

【出席議員】 (27名)

菅原由和 加藤清 佐藤美雪 宍戸直美 菅野至 門脇芳裕 佐藤正典 高橋善行
佐々木友美子 東隆司 及川春樹 高橋晋 千葉和彦 小野寺満 高橋浩
千葉康弘 瀬川貞清 千葉敦 廣野富男 及川佐 飯坂一也 阿部加代子 中西秀俊
菅原明 小野寺重 藤田慶則 今野裕文

【欠席議員】 小野優

【出席者】 倉成市長 小野寺副市長

二階堂政策企画部長 浦川総務部長

及川GX推進室主幹 大内GX推進室副主幹

鈴木議会事務局長 菊池議会事務局次長 佐藤議会事務局副主幹

【次 第】

1 開 会

2 挨 拶

3 協 議

(1) 説明事項

2050年二酸化炭素排出実質ゼロを目指すことの表明について

4 その他

5 閉 会

【概 要】

1 開会 (略)

2 挨拶

○議長（菅原由和君） 大変ご苦労さまでございます。先ほど臨時会では、円滑な議事進行にご協力いただきまして大変ありがとうございました。引き続きの全員協議会もどうぞよろしくお願い申し上げます。

では、倉成市長からごあいさつをいただきます。

○市長（倉成淳君） お疲れ様でした。本日は市議会臨時会、そしてこの全員協議会ということで、柔軟にご対応いただきましてありがとうございます。午後からは北上市と金ケ崎町の議員交流会があるということで、そこでは素晴らしい講師を招いての話があると。佐賀元部長が講師になって、平安ムーブメントの話があるということでしっかりと聞いていただきたいと思います。私の方は交流会には懇親会から参加する予定ですのでよろしくお願いします。

それと本日のGX推進室が行っているこの内容につきましては、実は定例記者会見でもこれを発表する予定でありますので、その前に皆様方にしっかりと説明したいという意図でございますので、よろしくお願いします。以上です。

〜〜〜〜〇〜〜〜〜〇〜〜〜〜〇〜〜〜〜〇〜〜〜〜〇〜〜〜〜〇〜〜〜〜〇〜〜

3 協議

(1) 説明事項

○議長（菅原由和君） それでは早速、3の協議に入ります。

(1)説明事項の2050年二酸化炭素排出実質ゼロを目指すことの表明について、説明をいただきます。
及川GX推進室主幹。

○GX推進室主幹（及川政典君） 市民環境部GX推進室でございます。

本日、部長が忌引きで欠席しておりますので、GX推進室主幹である私の方から説明をさせていただきます。それではお手元の資料の01の①、2050年二酸化炭素排出実質ゼロを目指すことの表明についての資料をご覧ください。

まず1番目として、二酸化炭素排出実質ゼロとはということでお示しをしております。こちらは、CO₂などの温室効果ガスの人為的な発生による排出、それと森林等の吸収源による除去量との均衡を達成するという事で、いわゆるカーボンゼロとかカーボンニュートラルと言われるものでございます。

環境省の方で定義付けをしておりますけれども、一般的に申し上げますと今、申し述べたようなカーボンゼロというような言い方になります。表明は、先ほど市長から述べましたように、8月7日に予定されております定例記者会見の場において、市長から読み上げて表明をするという形を考えております。

表明内容につきましては、別紙の01の②の資料をご覧ください。奥州市2050年二酸化炭素排出実質ゼロ表明ということで、主な構成としましては、世界的な気候変動が頻発しているということ、それから、国内の動向について記載しておりまして、最後に2050年に向けて、CO₂の排出量を実質ゼロを目指すということの内容でまとめております。

今回の表明の効果ですけれども、当GX推進室が設置されて初年度ということで、残念ながら当市はこういった取組は、他市町村と比べて遅れている部分がございますので、まずはしっかりと地球温暖化に対応して、市の方針を内外に明確化したいという思いがございまして、今回、表明をしたいというものでございます。

具体的取組でございます。5番、6番の方にまとめております。まず、中長期的な取組ということになりますけれども、令和9年度に向けて市環境基本計画、それから地球温暖化対策実行計画の策定に向けまして、現在、それを準備するための調査に取り組み始めております。

まずは、この改定の際には、しっかりとカーボンゼロ、カーボンニュートラルを明記できるように、進めて参りたいと考えております。

それから、市の公共施設のZEB化やEVなどの次世代自動車の導入など、省エネ化や脱炭素をし、調達エネルギーの再エネ導入などについては、計画的に進めて参りたいと考えております。

それから人材育成の観点から、脱炭素意識を民間に波及させていくためにも、小・中学生、あるいは高校生を対象にした環境学習、環境教育にも取り組んで参りたいと考えております。

今回、発表のタイミングに合わせ、既に取組を開始している事項について、6番でご紹介申し上げます。

まずは、1点目J-クレジットです。こちらは、現在、プロポーザルの手続を進めております。今後、クレジットの販売により得たものを市の政策に生かすということで、地域全体の脱炭素化を進める第1号の取組事例ということで、進めて参りたいと考えております。

それから、2点目です。企業との協定による脱炭素関連事業の推進です。今回の表明に当たるファーストアクションということで、国内の大手企業と連携協定を新たに結び、脱炭素、それから地球温暖化への取組を行うことを既に準備しております。具体の協定内容は、相手方と最終の協議中ですので、詳細はこの場では伏せますけれども、国内においては、地球温暖化に対する取組として、脱炭素社会を目指す緩和の取組、それから熱中症など気候変動へ対応をするために行っていく適応という2つの取組を現在求められております。この2つの対応に、今回の協定におきましてしっかりと取り組んでいきたいということで、現在準備をしておりますので、どうぞ協定の締結の際は、ご注目いただければと考えております。

現在、この表明について、国内、県内の状況については次ページにお示しをしております。全国の約3分の2の自治体、それから県内においても、県を含めまして33市町村中23、これは県も含めてということになりますけれども、表明をされているということですので後程ご覧いただければと思います。以上です。

○議長（菅原由和君） 説明は以上です。ご質問等ございましたらご発言をお願いいたします。

3番、菅野至議員。

○3番（菅野至君） 3番菅野至です。

6番の具体的に進んでいる取組事項の内容の中にあります、J-クレジットの販売についてももう少し詳しくお聞きしたいと思います、よろしくをお願いします。

○議長（菅原由和君） 大内GX推進室副主幹。

○GX推進室副主幹（大内守人君） それでは現在進めております、J-クレジットの内容につきまして、プロポーザルの最中ですが可能な範囲でお答えしたいと思います。

対象としておりますJ-クレジットの認証を求める予定としておりますのが、奥州市内の市有林の管理保全に係る分の削減されたCO₂量をクレジットの対象とする予定でございます。奥州市内の市有林およそ3,000ヘクタールほどあるかと思っておりますけれども、今回はそのうち、森林経営計画の整ってありました一部分をまず対象とする予定で進めているところです。以上です。

○議長（菅原由和君） 菅野至議員。

○3番（菅野至君） ありがとうございます。先日私たちの会派で、住田町でJ-クレジットの視察をしてきたところですが、意外と事務だったりとかが大変だというお話だったので、それでもやはりその森林の管理保全については、非常に有効なことですという内容だったので、ぜひですねここしっかり進めていただいて、やはりその市有林、これから管理等々をしていく中で大変だと思いますがそういったところで有効にしていいただければなと思いますのでその辺、お伺いして終わりたいと思います。

○議長（菅原由和君） 及川GX推進室主幹。

○GX推進室主幹（及川政典君） 実際、森林の経営の部分については、農地林務課の担当ということになりますので、担当課と連携を密にし、さらに積極的に取り組んで参りたいというふうに思います。以上です。

○議長（菅原由和君） 8番、東隆司議員。

○8番（東隆司君） 8番、東です。

表明することについては大いに賛同するものでございます。頑張っていたと思います。

そこで、やはり大事なのは表明することが目的なのではなくて、表明したことをどれだけの事業者さん、そして市民、皆さんにご理解いただいた上で、それを確実にゼロに向かって進めていくと、そういうことだと思います。そういった具体的な取組として5番のところに取組事例が、縷々書かれておりますけれども、やはりどれだけ浸透させるかというところがやはり肝かなと。その部分について今GX推進室ではどのように進めていくように考えておられるのか、お伺いをいたします。

○議長（菅原由和君） 及川GX推進室主幹。

○GX推進室主幹（及川政典君） ありがとうございます。まず先ほどご説明いたしましたファーストアクションの取組の中で、企業との連携協定を考えているというお話をいたしましたけれども、その中で、一般市民の皆さんにも身近なものを取り上げて、それを普及させるといったような取組もございますので、そういったものを切れ目なく進めていければ、徐々に市民に浸透していくのかなというふうには考えております。

それからあとは、やはりこの環境問題についての関心を高めるためにやっぱり小・中学校からの取組が大切だというふうに思っておりますので、現在も積極的に学校の方には呼びかけておりますけれども、さらに、学校を高校も含めて取組を深めていきたいというふうに思っております。その際には、環境市民会議であるめぐみネットの方とも連携をしまして、市からの取組の押し付けではなくて、市民の皆さんの関心のあることを一緒にやっていくというような形で取り組んで参りたい、そういったようなことを進めまして、市民の皆さんに浸透させていきたいというふうに思っております。以上でございます。

○議長（菅原由和君） 倉成市長。

○市長（倉成淳君） 参考までに先日の国道107号の要望活動で、住田町の神田町長と一緒にしたんで、その時の話をします。住田町は、もうJ-クレジットでお金を売買まで行ってまして、それで町民にいろいろ森林のことを話すとそれを話していく中で、実は、例えば漢方薬の原料をつくれるよねここでと、それから鹿を獲ったときに鹿のツノ、細かくすると漢方薬の素材になるわけです。そういう形でありわいと合わせながら、こういう、カーボンクレジットに向けての活動が出てくると。森林から入ってくるお金と、それから市民がそうやって生業づくりで入ってきたお金で持続可能な仕組みが作れるんじゃないのってところで意見が一致しました。そういうやり方もあるかなというふうに思っています。

○議長（菅原由和君） 他にございますでしょうか。5番、佐藤正典議員。

○5番（佐藤正典君） 5番佐藤です。ご説明ありがとうございます。

何点か伺いますけども、公共施設のゼロエネルギービル化を進めるって話を伺いました。考えられるところとして太陽光発電によって電気を作り、蓄電池によってためながらそれを利用する考えだと思いますけれども太陽光発電、ご存じのとおり、気候や日照時間に左右される不安定な発電でございますのでそのことにどのような見解をお持ちなのか伺います。また、蓄電池の活用も検討されているとは思いますが、蓄電池はご存じのとおり1キロワット当たり1,000万円ぐらいします。5年後、10年後に待っている蓄電池の更新費に補助金は付きませんので、将来の更新費に市の一般財源から億単位の莫大な費用が出ることが予想されます。このことへの見解を伺います。

○議長（菅原由和君） 及川GX推進室主幹。

○GX推進室主幹（及川政典君） 一例としてZEB化ということをお示ししておりますけれども、いずれ現在、市の公共施設のどこの場所にどのような、特に太陽光発電ですけれども、適切かというような調査を始める準備をしております。その中で、どこに設置をすれば効果的に発電できるか、需要に近い場所に設置できるかというようなことをその調査で検討して参りますので、それが明らかになりましたから、きちんと計画を立てて推進していきたいということで、現時点でどこをどうするということがまだ決まっているわけではございませんので、今後の中で今おっしゃられたご意見等については、検討して参りたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（菅原由和君） 佐藤正典議員。

○5番（佐藤正典君） ありがとうございます。例えばですけど、行政事務組合で現在活用されていない電気から水素を作りましてそれをZEB化でのエネルギーとして活用する考え方もあるとは考えますが、その点についてご見解があれば伺います。

○議長（菅原由和君） 大内GX推進室副主幹。

○GX推進室副主幹（大内守人君） お答えいたします。主にメタン等から発生したものを水素に転換をしてエネルギー源として活用するということにつきましては、秋田県の県立のし尿施設の方で既に運用が始まっております。ただ、現段階で水素の供給網も含めまして、実用化という意味ではまだまだ商用ベースには乗っていないというふうに判断しておりますので、あくまで現時点で奥州市の規模のし尿処理施設が、そういった秋田県のような大規模の施設と比べて採算性等を含めて実用可能かどうかについては、今後、研究の余地があるものと思っております。

○議長（菅原由和君） 他にございますか。17番、千葉敦議員。

○17番（千葉敦君） 17番千葉敦です。再エネ、再生エネルギーの導入の推進とも書いてありますけれども、太陽光以外にどのようなことを考えられているのかお願いします。

○議長（菅原由和君） 大内GX推進室副主幹。

○GX推進室副主幹（大内守人君） お答えいたします。現時点で国が示しております目標におきましては、太陽光発電が1番目に挙がっています。その他の風力、水力、地熱、あるいはバイオガス、バイオメタンとかそういったものにつきましては、今後、来年度以降に区域施策編の作成のために行う区域内の奥州市域内のポテンシャル調査において、明らかにして参りたいと考えているところでございます。

○議長（菅原由和君） 千葉敦議員。

○17番（千葉敦君） その中にですけど担当は農政になるんですけども間伐材の活用あるいは、民間の林地、森林地帯も含めて、間伐することによってCO₂の吸収を高めるということもできますので、そういったテーマの、担当が違いますけれども、そういった連携等もあるかと思っておりますけれども、その辺の見解をお願いします。

○議長（菅原由和君） 及川GX推進室主幹。

○GX推進室主幹（及川政典君） 間伐等によるCO₂削減についても、一方ではJ-クレジットの取組の中でもそういった取組が出て参りますし、あとはその間伐材そのものの効果的な利用ということで、木質バイオマスといったようなところの発電にも繋がって参ります。ただ、木質バイオマスの場合は、やはり原料となるチップの確保というのが非常に安定してしかも大量に必要なというようなことで課題が全国的に生じていると。チップを輸入してまでやらなければいけないというような状態になっているということも聞いておりますので、その辺もいかに適正性があるかというところもしっかりその調査の段階で検討して参りたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（菅原由和君） 5番、佐藤正典議員。

○5番（佐藤正典君） 関連して伺いますけれども例えばですけど気仙沼の方では今現在、ガス発電でちゃんと営業しておりますので、ご存じだと思うんですけども、そのような成功事例もありますのでぜひ検討していただければと考えます。それが1点として考えます。

太陽電池に関してなんですけども、今日の新聞でもありましたけども、ペロブスカイト太陽電池がございまして、令和8年から量産化されるっていう話も聞いております。これは国産で作られますし、安価で今後の検討材料になるのかなと考えますけれどもそれについて伺います。

○議長（菅原由和君） 大内GX推進室副主幹。

○GX推進室副主幹（大内守人君） 1点目の木質バイオマスの件につきましては、研究・検討をしていく中で奥州市の森林の育成保全に、いかに合った形で事業化ができるかという点については注意しながら検討して参りたいと思います。

2点目のペロブスカイトにつきましては、こちらは一応まだ、現時点では大手の建設会社、あるいは電気メーカーの方でそれぞれ実証実験、1年というような長い期間の実証実験を開始されているばかりということでございます。ただあちらのペロブスカイトにつきましては、非常に軽い太陽光電池ということで、垂直に設置が可能ということですので、屋上に設置が難しいような建物であっても直角に設置することで、電気を生み出すことができるということで非常に有効な可能性を秘めているものと認識しております。年が経っていく中でそういったものをどんどん取り入れていくという視点は重要なと考えているところでございます。

○議長（菅原由和君） よろしいでしょうか。それでは特にないようですので、説明事項は以上といたします。説明者退席のため、暫時休憩いたします。

~~~~~○~~~~~○~~~~~○~~~~~○~~~~~○~~~~~○~~~~~○~~~~~○~~~~~

#### 4 その他（以下略）